

平成29年度 事務事業評価シート(実施計画事業 **経常事業**)

事業の概要	事務事業名	環境ISO推進事業				担当部	市民生活部				
	会計区分	一般会計				担当課	環境対策課				
	事業期間	平成26年度以前		～	平成30年度まで		担当係	政策推進係			
	基本施策・展開方向	1 安全・環境		4 環境		2 市が率先して省エネルギー対策・新エネルギーの活用を推進します					
	予算区分	款	2	項	8	目	1	大	4	中	1
	根拠法令・個別計画	国際規格ISO14001、第二次小牧市環境基本計画									
	目的	何・誰を対象に	市有施設のエネルギー消費量および温室効果ガス排出量を対象に								
		どの様な状態にするのか	環境マネジメントシステムの導入・維持により最大限削減する。								
	内容(手段) 目的達成のためにどのような事業を実施したか	<p>◆28年度実施内容 環境マネジメントシステムを機能させるため配置されたISO推進員によって環境影響の監視及び測定等を実施した。また、内部監査においてシステムが適切に実施され、維持されているかを検証し(7/27～8/28)、環境管理責任者が取りまとめた内部監査結果について環境管理総括者へ報告を行った(12/28)。さらに、1/16～18の3日間で、第三者機関による外部審査を受けるなど、年間を通じてPDCAサイクルのもと環境ISOの取り組みを推進した。</p> <p>◆28年度直接経費の内訳 内部監査員研修講師謝礼等(221千円)、 環境ISO定期審査手数料(500千円)、 環境ISO管理システム保守管理委託料(221千円)</p> <p>◆平成29年度直接経費の内訳 研修講師謝礼等(494千円)、 環境ISO定期審査手数料(500千円)、 環境ISO管理システム保守管理委託料(221千円)</p>									
	受益者負担	無									

			単位	H26決算額	H27決算額	H28決算額	H29予算額	
	コスト	費用	直接経費		千円	924	1,722	942
正職員			従事者数	人	0.40	0.40	0.40	0.40
			人件費	千円	2,251	2,251	2,251	2,251
その他職員			従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
費用合計		千円	3,175	3,973	3,193	3,466		
対前年比		%		125.1	80.3	108.5		
財源	一般財源		千円	3,175	3,973	3,193	3,466	
	国・県支出金		千円	0	0	0	0	
	その他財源		千円	0	0	0	0	

業	活動指標名	単位		H26	H27	H28	H29
	績	第三者機関による審査	回	目標	1	1	1
実績				1	1	1	
			目標				
			実績				
業	成果指標名	単位		H26	H27	H28	H29
	公共施設のエネルギー消費量	kl	目標	12,450	12,263	12,079	11,898
実績			12,755	12,069	12,631		
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				

事業の自己評価	平成28年度の実施結果	事業の達成状況	例年と比べて夏場の気温上昇、冬期の気温低下が厳しかったことでエアコン使用量が増加したため、目標値は達成できなかった。						
		事業実施における課題	継続したISO14001への取組みの結果、環境配慮行動の定着や内部監査体制の確立といった有効性が確認される一方で、省エネ法や温対法が全ての公共施設のエネルギー等の削減を求めている中、ISO14001では適用範囲が限定的となっていることや、継続的改善に伴うシステムの肥大化や毎年の外部監査受審の必要性、取組みの煩雑さなどの弊害も目立ち始めた。						
	平成29年度の実施内容	29年度における実施内容や結果見込み	H28年度に引き続き、環境影響の監視及び測定の実施と内部監査、外部機関による定期審査を受ける一方で、本市独自の環境マネジメントシステムを構築し、H30年度に移行できるよう準備を進める。						
	平成30年度の事業の方向性	方向性の判定	縮小	対象や手段の絞込み等により、事業のボリュームを縮小すべきもの					
削減額・削減対象		事務事業評価による額	550	千円	予算区分	8	節	12	節
判定理由・削減内容		ISO14001に準拠した現行EMSから本市の独自EMSへ移行するのに伴い、 ・環境監査員研修の講師謝礼から50千円 ・第三者機関による外部審査の受審を取りやめによる審査手数料500千円以上、合計550千円を削減する。							
	30年度以降の実施内容	30年度施行の独自EMSは、現行のISO140001のもつ様々な問題点を改善し、現在の小牧市の特性に合った内容で作成するものである。したがって、職員の新システムへの十分な理解のもと適切な運用が可能となるよう情報提供を行う。							

二次評価	方向性の判定	判定理由
	縮小	一次評価のとおり。 これまでのISOの運用ノウハウを有効に活用し、今後の本市独自の環境マネジメントシステムの構築、運用に繋がりたい。 平成30年度以降の事業費（一般財源）は、原則的に、平成29年度当初予算の金額から本年度の事務事業評価による額を控除した金額を上限とするともに、引き続き、効果的・効率的な事業実施に努められたい。